

第3回北区新庁舎にぎわい創出有識者会議 概要

- 日時 令和6年9月9日(月) 9:30~12:00
- 場所 北区役所 第一庁舎 3階庁議室
- 次第
 - 1 開会
 - ・ 前回会議のご意見等に対する対応
 - 2 議事
 - ・ 低層部にぎわい想定イメージについて、これまでの調査結果等
 - ・ 低層部にぎわいの基本的な考え方と、機能・空間デザインに関する検討事項
 - ・ しくみのデザインに関する検討事項
 - 3 その他
 - 4 閉会
- 会議概要
 - 1 開会
 - ・ 事務局から、前回会議のご意見等に対する対応について説明があった。
 - 2 議事
 - 事務局から、これまでの調査結果について説明があった。

○ 委員意見等

- ・ 王子駅周辺では、さまざまな会議体があるため、全体で共通認識が必要。北区新庁舎にぎわい創出有識者会議（以下、「有識者会議」）で検討していることを、他の会議で提示してはどうか。

○ 事務局から、低層部にぎわいの基本的な考え方と、機能・空間デザインについて説明があった。

○ 委員意見等

- ・ 3階に入居する想定のあるNPO団体等と、下の階を利用する人たちとの間で、発見や繋がりが生まれるのではないかと。また、3階広場に面したステップリングの作り方や使われ方が重要ではないかと。
- ・ 低層部の各階の役割や意味合いがはっきり分かれてしまうと面白くない。NPO団体等の活動や、区役所の職員が働いている様子が見え、各層が折り合わさるような空間が重要。
- ・ 2階部分は、パブリックと役所的な使い方が混ざり合うことが最も特徴的であり、議論が必要。2階をテリトリーに位置付けることで、庁舎を超えてどのように繋げていくかということが話しやすくなるのではないかと。
- ・ テリトリーという言葉については今後整理が必要。一番下に、生命や生体のレイヤーがあり、その上に生活や社会の流動のような、社会のエネルギーのようなものがあり、更にその上に生業としての仕事場があるというイメージで考えている。この生体・生活・生業の階層の全体をテリトリーと呼ぶのではないかと。中間部分である、2階の生活や社会のエネルギーが大きい点が面白く、上と下がどうインタラクションを起こしていくかが重要。
- ・ 受付と、来庁者がゆったりする空間が同一フロアにあると、動線のスピード感や空気感が異なるので、共存できないのではないかと。
- ・ まちなかにもNPO団体等の活動拠点がたくさんあるのであれば、連携が必要。DVなどの社会課題は、必ずしもオープンな場所で見つけられるものではない。そういった課題の窓口となるものが、ここに集約されていると良いのではないかと。
- ・ 最近はイノベーション空間がどんどんオープンになっているが、逆説的に何がコアで守らなければいけないのか、どう配置されるのかが重要。潜在的に存在する小さなプレイヤーも集まってくることで一つのショールームが出来るのではないかと。
- ・ 一人で素敵な時間を過ごせる場所があること、一人で過ごすことが孤独でないことが重要。繋がらなければいけない、明るい方向にいかなければいけない、というようなプレッシャーがある場所に行けない人たちが相当数いる。機能で埋めすぎないことが重要。目的なき目的地として、一人だけど、まちのざわめきの中で、その中にいて良いのだと実感できる空間を、いかに非機能的な空間の中で実現するかが重要。

- ・ 基本設計のスケジュールの中で、受付周辺の議論についての明確なタイムラインが必要。
- ・ NPO、飲食、商業、学びの場の、ある程度のゾーニングなどのイメージが欲しい。

○ 事務局から、しくみのデザインについて説明があった。

○ 委員意見等

- ・ 低層部の管理については、所管課を一つに集約したほうが良いと考える。
- ・ エリア外の空間も合わせた管理主体が必要。敷地外の管理主体は、不動産的な業務が重要になる。知縁力が求められるような敷地を超えたものが必要。何パターンか提案があると良い。

3 その他

○ 委員意見等

- ・ 有識者会議の年度末までの議論が、他の会議体へ、具体的なしくみの検討等に影響を及ぼしていくのではないかと。

4 閉会

- ・ 次回会議日程について

○ 事務局から、以下のように説明があった。

- ・ 意見を踏まえフィードバックを行う。